



馬 耳 東 風

「ニホニウム通り」の元素プレートを踏みながら歩いてみた。かつて寺田寅彦が元素は「源氏名」のようなもの（柿の種 岩波文庫）だと書いたが、和光市駅から理研までの道路約1.1キロをシンボル道路として、何と1から118番までの元素記号を描いた路面プレートを埋め込み道路番号も113号に変更したのだ。標識モニュメント「113Nh 発見の町」のプレートが設置され業績を讃えている。街を歩きながら周期表をたどる仕組みだ。暗記法の「水兵リーベ僕の舟…… H He Li Be B C N F Ne ……」などで苦心の昔が思い出される。森田浩介博士研究グループが100兆回以上の原子核衝突から合成に成功したアジア初の元素で、パブリックレビューを受けて日本を象徴した新元素名が命名された。2017年の命名記念式典には皇太子殿下のご臨席があった。輝かしい科学の業績が多く市民の理解と関心を生み、歩きながら学習する取組みに拍手。研究者を激励する特色ある科学の町が世界に注目され、市民あげて協力の姿勢が誇らしく示された。ちなみにNhは超ウラン元素でZnをBiに高速衝突して合成し平均寿命は2ミリ秒の瞬時である。

かつて姫路市の化石ハンター岸本真五さんが、7,200万年前（白亜紀末期）の化石を2004年（平成16年）に淡路島で発見し、研究者が精査のところ新種の恐竜だと分かった。アヒルのようなくちばしを持つ草食恐竜で、体長7～8m 体重は4～5tと推定される。発見時には足がガクガク震えたそうだ。これまでの報告と一致しない

特徴から新種と断定された。リアルな復元動画も発表され、淡路島が国生み神話で日本の起源に由来することから「ヤマトサウルス・イザナギイ」と命名された。この科は2千万年同じ姿で生きつづけ繁栄したと考えられている。高校1年の頃から発掘に興味を持ち掘り続け、日本の国起源の学名にこぎつけた功績は何と誇らしく素晴らしいことか。発掘者の功績と粋な命名に拍手。

馬は人の生活と密着してきたが機械文明の現在、わが国では競馬や特定の使役に従事してきた。戦時中は軍馬として兵士と一体化した重要な戦力であった。「馬の博物館」に享保の改革を行った八代将軍吉宗公の相馬地方の馬の飼育調査があった。絵師を同行した「厩坂図繪」に、馬を追っている情景・削蹄・体毛を整え・馬を洗う・焼印の場面を「話し言葉」と一緒に書き入れている。動画に通ずるようで見ている楽しい。また戦国時代、馬は重要な戦力であった。戦国期桑嶋流「馬医療治書」の考察が、獣医史学会伊藤一美理事から今回の学会で発表された。天正元年（1573）の猪紙本でさすがに痛みがひどいが桑嶋新右衛門仲綱の花押がしっかり記されている。この史料の特色は、戦国期の状況を示す怪我と療処方、漢方薬の藤瘤、天南星（マムシグサ）、かち栗などが記されている。矢の根が傷口内に残っている場合、カラスの羽を13本焼いて髪油と混ぜ傷口に押しあてて貼っておく治療法や梵字で書かれた呪符も戦国期の特徴だという。桑嶋流は遣唐使に源流をなすといわれ、一層の研究解析が期待される発見である。

（柏）